

民主市民の賞を受け、40年余り積もった“恨”が解けた

【韓国ハンギョレ新聞 2018.12.31】

在日韓国良心囚同友会に「民主主義者 金槿泰賞」
李哲・閔香淑・金元重氏が代表として受賞



※28日午後、ソウル聖水洞聖水アートホールで「第3回民主主義者 金槿泰賞」を受けた在日韓国良心囚同友会の李哲（左から）会長と夫人 閔香淑さん、金元重氏が金槿泰氏の胸像と花束を抱えて記念撮影をした。（金ジョンチョル記者）

「この場の多くの民主主義者たち、民主化運動の市民たちが共にして下さるということだけでも、私たちはもう完全に解放され、救われた。」

李哲（70）在日韓国良心囚同友会会長は去る28日、ソウル聖水洞聖水アートホールで開かれた「第3回民主主義者 金槿泰賞」受賞の感想をこう述べた。

彼は「3年前に日本で開いた11・22事件（中央情報部が在日韓国人留学生など20人をスパイ団としてねつ造した事件）40周年行事の際、咸世雄神父が来られて、私たちに“皆さんが当時の国家権力によって酷い扱いを受けていた時、私たちは何の助けもできなかった。そのことについて心より謝罪し許しを乞いたい”とおっしゃった。私たちは咸世雄神父に許しを乞われる立場ではないが、その言葉を聞いて積もっていた“恨”が半分は解けた気がした。今回、名誉ある金槿泰賞を受けるにあたり、残りの“恨”も完全に解けた」と話した。1990年に日本で結成された在日韓国良心囚同友会は、これまで在日同胞の地位向上だけでなく、韓国良心囚の招聘講演会、北朝鮮住民への食糧支援などの活動を行ってきた。授賞式には李哲会長と夫人 閔香淑（67）さん、金元重（67・千葉商科大教授）氏が代表として参加した。

※「第3回民主主義者 金槿泰賞」を受けた在日韓国良心囚同友会の李哲（左から2番目）会長と夫人 閔香淑さん、金元重氏が、昨年の受賞者である民衆音楽の作曲家ユンミンソク（左端）氏から受賞決定文を伝達されている。（写真：金ジョンチョル記者）

高麗大政治外交学科に留学中だった李会長は1975年12月、中央情報部に連行されて、拷問によってスパイにねつ造され、死刑囚になり、婚約者だった閔香淑氏も懲役3年6ヵ月を宣告された。金元重教授（ソウル大経済



学科留学)も11・22事件でスパイにねつ造されて懲役7年の刑を宣告され、服役した。かれら3名を含め、今まで再審で無罪を宣告された在日同胞は34人にのぼる。

金槿泰賞選定委(委員長 申庚林)は受賞決定文で、「この賞は破壊された青春を乗り越えて再び立ち上がり、連帯の手を差し延べ、希望の力を見せてくれた在日韓国良心囚同友会に捧げる尊敬と感謝であり、その人たちを裏切った祖国に代わって捧げる深い謝罪であり、二度と大韓民国をそのような卑劣な祖国に作らないという、私たちの約束」だと明らかにした。

授賞式に出席したソルフン議員は、「1977年の民主化デモで投獄された時、死刑囚で手錠を付けていた李哲会長に会った。死刑執行があった日、罪のない在日同胞が引っ張られて行かれたのではないかと、胸が裂けるような思いをしたのを覚えている。地獄のような時代を勝ち抜いて監獄を出た後にも、祖国の民主化のために貢献してきた人びとに感謝を捧げたい」と述べた。

授賞式では、住民が少しずつ負担し合ってアパート警備員の減員を防いだ蔚山市太和洞「リバーサイト」の入居者たちに特別賞が授与された。(金ジョン Chol 前任記者)